

2023年度活動報告書 赤松正行 役職：教授

学内での活動

1. 研究科長

学内および学外との諸事を調整し、円滑な運営が行えるように検討して実施した。

2. 委員会

教授会、運営会議、連絡会議、教務委員会（委員長）、入学試験実施委員会（委員会）、自己点検委員会（委員長）、研究倫理審査委員会（委員長）、入学試験委員会、システム委員会、兼職兼業委員会、ハラスメント防止委員会。発明等審査委員会、図書委員会、海外交流ワーキング・グループ、メディア・クリエーション・センター検討ワーキング・グループのメンバーとして所管業務を行い、円滑な学校運営に努めた。

3. 授業

3-a. メディア表現基礎3

全教員が参加するメディア表現基礎3では、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるためのメディア表現特論の講義の概要を紹介した。個人の担当講義としては、現実の認識問題や自律分散型の社会や表現の在り方を考察し、その後の展開への端緒を開いた。

3-b. メディア表現特論B

小林昌廣教授、前林明次教授とともに専門科目であるメディア表現特論Bを担当し、全教員による議論では今日のメディア表現と身体および環境をめぐる動向と諸問題を検討した。個別の講義では、リアリティとモビリティをテーマとして個人作品の紹介を通して、テクノロジーによる意識の変遷を考察し、簡単な実習としてモバイルAR作品の企画と実装による実践を行なった。

3-c. 特別研究

個人ゼミを主催し、担当学生とともにメディア・アート関連の議論と制作を行い、学生の修士研究や年次制作などの指導をゼミとして行った。また、構想発表、中間発表、作品審査、論文審査・最終試験、年次制作の学生発表に対して助言指導を行った。

3-d. プロジェクト実習

「運動体設計」プロジェクトを瀬川晃准教授と桑久保教授とともに実施した。これは運動体を時間の経過とともに空間内の位置を変える現象や活動と定義し、運動体にまつわる何らかの実践が芸術的、社会的、学術的な意義に繋がることを検証した。この中で特にダーク・ツーリングと銘打って負の遺産を巡るサイクリングの調査と企画を行い、実践と記録を行なった。

学外での活動

WEBサイト、展覧会、アプリなどを通じて、作品の構想から制作、発表、記録などの一連の作業を行った。これらの研究は自転車を基盤として、モバイル・デバイスやウェアラブル・デバイス、そしてAR（拡張現実・変容現実感）やVR（仮想現実感）を応用した表現であり、伝統的な形式を超える新しい可能性を探求した。これには展覧会の開催や国際学会での講演などが含まれる。また、空間コンピューティングの研究に時間を費やし、その成果は2024年初頭から発表している。

活動歴（2023年1月～12月、時系列逆順）

2023.12.20～12.21 ダーク・ツーリング10, 夢洲・舞洲、他, 大阪

2023.11.10～11.12 講演「Artistic Imaging in the Age of Mobility」、Advanced Imaging International Festival International Conference、Seoul, South Korea

2023.11.07～11.10 ダーク・ツーリング09, 豊島・伊吹島、他, 香川

2023.10.04、10.18 ダーク・ツーリング08, 旧徳山村門入集落, 揖斐川町

2023.09.17～09.19 ダーク・ツーリング07, 成田国際空港, 千葉

2023.08.23、他 Apple Vision Proデベロッパーズ・ラボ, 六本木

2023.08.11～8.20 展覧会「タレスの刻印@藤橋城」, 鶴見亭特設会場, 揖斐川町

2023.07.26 ダーク・ツーリング06, IAMAS旧校舎, 大垣

2023.07.12 ダーク・ツーリング05, 谷山集落跡, 揖斐川町

2023.07.08～07.10 ダーク・ツーリング04, ニセコ, 北海道

2023.07.05～07.07 ダーク・ツーリング03, トカプチ, 北海道

2023.06.04 ARアプリ「この地に咲く花の境界線」

2023.06.02～06.04 ダーク・ツーリング01/02, ツール・ド・フクイチ, 福島

2023.01.01 - 2023..12.31 WEBサイト「Critical Cycling」運営・執筆, <http://criticalcycling.com>